

夢と希望、感謝の気持ちを持って未来へ

令和3年 成人の集い

1月11日(祝)、市民文化会館アゼリアホールで令和3年「成人の集い」が開かれ、733人の新成人の皆さんが参加しました。

今年は午前・午後の二部制にして密を避け、時間も短縮されるなど、感染症対策をとった中での異例な成人式となりました。その様子や新成人の姿などをお伝えします。

※マスクは撮影時のみ外しています。



新成人自らがつくる お祝いの集い

本市の「成人の集い」は、毎年新成人による実行委員会
が自ら企画や運営を行います。今回は12人のメンバ
ーが昨年から準備に取り掛かりました。しかし、新
型コロナウイルス感染症の広がりは収まること
がなく、さまざまな点で例年通り実施することが難
しくなりました。開催まで1週間を切った1月7日、取
材に応じてくれた実行委員長の川原さんは、「最初
は久しぶりの友達との再会がマ
スク着用や短い時間で残念だ
と
思っていました。しかし、その
中でどうすれば楽しい集いになる
のかを一生懸命考えた経験は
自分たちの力になったし、
開催を支えてくれた周囲の
人の思いもいっそう身に染みて
感じられました」と振り返ります。
抽選会で当選した人へのイ
ンタビューは壇上ではなく座
席で、来賓がないのでサプラ
イズとして小・中学校の先生からのビデオ
メッセージを上映するなど、安全かつ心に残る集い
になるよう配慮しました。司会進行役の曾根さんは、「本
当に開催できるのかとぎりぎりまで不安がつきまといま
した。司会も予測できないことが多くて、それでも楽しく
委員を務めてこられたし、開催できてうれし」と語りま
す。同じく司会進行役の西山さんは、「コロナ禍だったか
らこそ、こうやって成人を祝えることが当たり前ではな
いんだなと思え、いろいろ深く考え工夫・行動すること
で自分たちのための成人式だと強く実感することができ
ました」と笑顔。特別な状況下でありながらも、二十歳の
皆さんは当日に向けた率直な思いを述べてくれました。



取材に応じた実行委員会のメンバー。
写真左から、曾根大夢さん、川原和見さん、西山由佳さん



「成人の集い」当日の様子

天気にも恵まれ、1月11日、市民文化会館で「成人の集い」が開催されました。

会場の外では、懐かしい友人との再会に喜び合う姿が多く見られましたが、各々マスクを着用し、新型コロナウイルスへの感染症対策も怠りません。受付でも、検温とアルコール消毒をして入場する様子は例年と異なりますが、マスク越しからでも毎年変わらない新成人たちのはつらつとした姿が見られました。

式では、実行委員代表による開会宣言に始まり、市長・市議会議長からの挨拶や吉本芸人による漫才、地元企業の協賛による抽選会などが行われました。また、実行委員会のサプライズ企画として、小・中学校の恩師によるビデオメッセージが流れると、会場内には歓声と笑顔が溢れました。

式の終わりの言葉では、実行委員会から「私たち新成人の身勝手な行動により、ご協力いただいた皆さまに迷惑をかけたためにも、二次会・同窓会はやめましょう」と、今回の開催に対する覚悟を新成人たちにあらためて呼び掛け、式を締めくくりました。

本市の未来を担う新成人。コロナ禍を経験しさらにひとまわり成長した若者たちの今後のさらなる活躍を願っています。

感謝の言葉

全国的にさまざまな地域の成人式が延期や中止になっている中、挙行していただいたことを本当にうれしく思います。「成人の集い」という、人生に一度の特別な思い出をつくることができました。ありがとうございました！

実行委員長 川原和見